

今日のトピック

## ギリシャ向け金融支援が失効

### ポイント1 金融支援が失効

#### IMFへの返済は延滞

- ギリシャ向け第2次金融支援は7月1日午前0時（日本時間の同日午前7時）をもって期限切れとなり、失効しました。また同日同時刻が支払期限だった国際通貨基金（IMF）への約15億ユーロの返済も延滞となりました。
- ギリシャ政府は期限切れ直前になって、債務再編を含む2年間の金融支援を求める新提案を提出しましたが、ユーロ圏財務相緊急会合で、この提案は退けられました。

【ギリシャ関連の主なスケジュール】

日程	主なスケジュール内容
7月 5日	緊縮策を問うギリシャ国民投票
7日	ギリシャの銀行営業再開予定
13日	ユーロ圏財務相会合 ギリシャのIMFへの融資返済（約5億ユーロ）
14日	ギリシャの円建て外債の償還（約8,300万ユーロ）
16日	ECB理事会
17日	ギリシャの3年物国債の利払い（約7,100万ユーロ）
20日	ECB保有のギリシャ国債償還（約35億ユーロ）
8月 20日	ECB保有のギリシャ国債償還（約32億ユーロ）

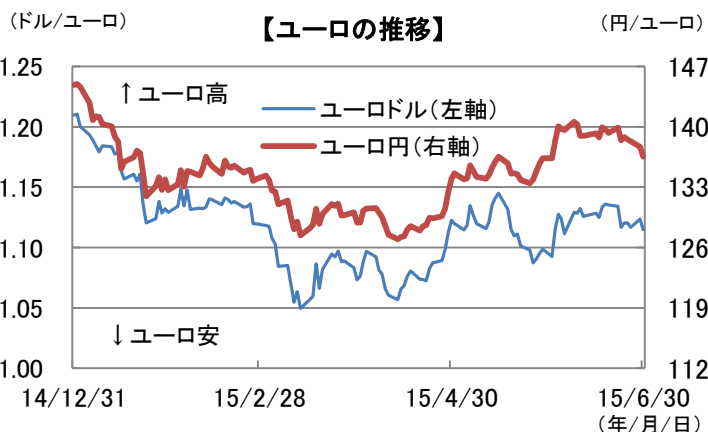
（注）上記は7月1日時点の予定であり、変更されることがあります。  
（出所）各種資料を基に三井住友アセットマネジメント作成

### ポイント2 国民投票の結果に注目

#### 支援の方向性を左右

- ギリシャは7月5日に国民投票を実施し、欧州連合（EU）側の財政改革案の受け入れについては是非を問います。その結果次第で、今後のギリシャ支援の方向性は大きく変わる可能性があります。
- 受け入れ賛成という結果になれば、EUなど債権団との支援交渉再開への道が開かれます。ただ反対の立場を続けるチプラス首相が政権を維持できるかどうか不透明感が強まります。
- 一方、反対という結果になれば、チプラス首相は民意を盾に緊縮見直しを迫るとみられますが、債権団側はそれに応じず、金融支援を完全に打ち切ることも考えられます。

【ユーロの推移】



（注）データの期間は2014年12月31日～2015年6月30日。  
（出所）Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

### 今後の展開 国民投票で財政改革案受け入れならEUは新たな支援策も

- また欧州中央銀行（ECB）の行動にも注目が集まります。ECBは現在、ギリシャの中央銀行がギリシャの民間銀行に資金を供給する「緊急流動性支援（ELA）」を承認しています。今回、ギリシャがIMFへの返済を延滞したことを受け、ECBはELAの承認を継続するのか難しい決断を迫られることになります。
- 報道によれば、EUは国民投票でギリシャが財政改革案を受け入れた場合を想定し、新しい金融支援を準備している模様です。ただ依然として先行きは見通しにくく、予断は許さない状況にあると思われます。そのため金融市場は当面、ギリシャ関連の報道に一喜一憂する展開が予想されます。

ここも  
チェック!

2015年06月30日 「ギリシャ問題」が抑制される3つのワケ（欧州）  
2015年06月24日 最近の指標から見る欧州経済（2015年6月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。